

13:1 さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。

13:2 夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうという思いを入れていた。

13:3 イエスは、父が万物をご自分の手に委ねてくださったこと、またご自分が神から出て、神に帰ろうとしていることを知っておられた。

13:4 イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

13:5 それから、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰にまとっていた手ぬぐいでふき始められた。

13:6 こうして、イエスがシモン・ペテロのところに来られると、ペテロはイエスに言った。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」

13:7 イエスは彼に答えられた。「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります。」

13:8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」

13:9 シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」

13:10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです。あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけではありません。」

13:11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「皆がきよいわけではない」と言われたのである。

足を洗うとは当時は奴隷の仕事でした。イエス様は愛を表し、またご自身が仕えるために地上に来られたことを表すために、進んでそのことをされました。全能であり絶対的な権威を持ったお方が、今も私たちを愛するゆえに、奴隷のようにみわざをなさっておられるという、この驚くべき事実に感謝しましょう。

ペテロはイエス様に奴隷の仕事をさせるのを申し訳なく思い、「洗わないでください」と言いましたが、それでは「何の関係もない」と、イエス様は言われました。このことから分るのは、もしも私たち不完全な人間が、何か善行をしたことによって神様と交わってもらえると思うならそれは不可能な話だということです。実際は罪を哀れんでいただいて洗っていただくところから、交わりが始まるのです。そのような自分であることを忘れて高慢にならないように気をつけましょう。安心して主に洗っていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

